

特定非営利活動法人日本火山学会
2024 年度臨時総会 議事録

開催日時及び開催場所

2024 年 10 月 17 日（木） 14 時 15 分～15 時 00 分

北海道札幌市 北海道立道民活動センター「かでの 2・7」かでのホール
(Zoom による中継も実施)

初めに出席数を確認した。定款第 26 条の規定により総会の開会は維持会員の 1/3 以上の出席をもって成立するが、臨時総会開催時の維持会員は 283 名であり、定足数は 95 名となる。会場出席者 62 名、ウェブサイトのフォームへの記入による委任状提出者及び表決権行使者 63 名の計 125 名について、会長が出席者と認定し、定足数を満たしていることを確認した。これを受けて、総会の議長である会長が開会を宣言した。

議題 1 議事録署名人の選出

議事録署名人として青山裕副会長・下司信夫副会長を選任した。

報告事項

- ・各委員会から、活動報告等を行った（別添資料 1）。
- ・学会の財務について報告し、質疑を行った（別添資料 2）。

以上、予定した審議事項を全て審議し議決したことを確認し、会長が閉会を宣言した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2024 年 10 月 31 日

議長 中村美千彦

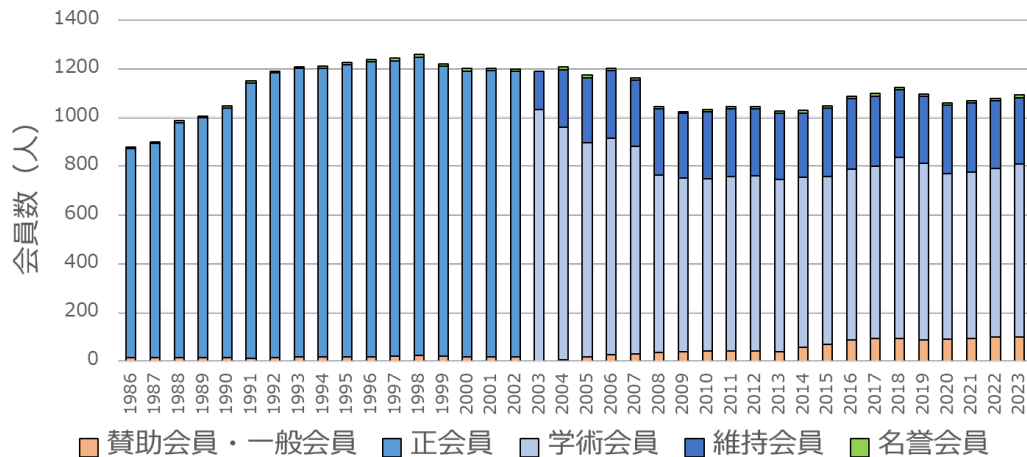
議事録署名人 青山裕 下司信夫

資料 1

○ 庶務委員会からの報告

会員数動向（2024 年 10 月 2 日時点）

	維持会員	学会会員	一般会員	計
2024 年度通常総会時（個人）・合計	264	667	96	1,027
2024 年度通常総会時（団体）・合計	1	0	19	20
名誉会員	11	0	0	11
2024 年度通常総会時・合計	276	667	115	1,054
2024 年度・除名（個人）	-1	0	-3	-4
2024 年度・入会・承認済（個人）	6	50	7	63
2024 年度・入会（団体）	0	0	1	1
2024 年度・会員種別変更（個人）	3	-2/1	-2	0
2023 年度・退会（個人）	0	0	0	0
2024 年度・学生会員継続手続き	0	4	0	4
逝 去	0	0	0	0
2024 年度通臨時会時（個人）・合計 （一般／学生）	272 (270/2)	720 (603/117)	98 (93/5)	1,090 (966/124)
2024 年度臨時総会時（団体）・合計	1	0	20	21
名誉会員	11	0	0	11
2024 年度臨時総会時・合計	284	720	118	1,122



○ 大会委員会からの報告

・ 2024 年度秋季大会について

事前参加登録者は計 494 名（昨年度は 448 名）。

会員：273 名、学生会員：110 名、シニア会員：20 名、

学部生（会員・非会員含む）：54 名、その他：37 名。

・ 来年度（2025 年度）の秋季大会について

・ 学術講演会の会期：10/1（水）～10/3（金）

・ 会場：キッセイ文化ホール（長野県松本文化会館）

・ 以下のように準備調整中：

－ 交流会：信州大学「あずみホール」（10/2）

－ 現地討論会：御嶽山（9/29-9/30），焼岳（9/30）

－ 一般講演会：キッセイ文化ホール（10/4），親子実験：信州大学（10/4）

○ 編集委員会からの報告

・ 「火山」の発刊状況・査読編集状況

発刊状況：【69 巻 4 号】 2024 年 12 月末発行

掲載内容（予定）寄書：1 編 解説・紹介：4 編

査読編集状況

現在査読編集集中の通常論文原稿：計 9 編

（論説 5 編、寄書 2 編、解説・紹介 1 編、書評 1 編）

○ 将来計画委員会からの報告

・ 70 周年記念事業ワーキンググループの活動報告

これまでに 6 回の会合を開催し、学会誌「火山」特集号の方針およびその考え方等について検討し、方針案を決定した。

（1）学会誌「火山」特集号 ⇒ 編集体制を決定

臨時編集委員長：嶋野岳人

臨時編集委員：70 周年記念事業 WG 委員

（市原美恵，上澤真平，嶋野岳人，高木朗充，中村仁美，野口里奈，

前田裕太，三輪学央，森田雅明，山田大志）

（2）SG の役割を再定義をメンバー再配置

SG1：「日本の火山学術、この 10 年」

SG2：「火山学会と社会の関わり」

○ 事業委員会からの報告

・ 普及啓発事業について

新しい学会オリジナルグッズとしてトートバッグ 100 枚(販売価格 1 枚 1,000 円) およびポンチョ (ポーチ付き、販売価格 1 つ 1,500 円) を作製した。
秋季大会会場で販売を開始。

○ 広報委員会からの報告

- ・「火山防災の日」の特設ページの開設について
2024 年から制定された火山防災の日に関連するイベントや過去の学会講演会についての情報を集約。今年度新たに開設した note も活用。
- ・日本語がネイティブでない火山研究者・学生を対象としたアンケート実施について
火山学会の国際化の推進を目的とし、火山学会の認知度や学会への要望を調査。
- ・「火山」掲載の書評記事のウェブ公開の検討について

○ 学校教育委員会からの報告

- ・地震火山地質こどもサマースクールについて
2024 年度は、三好ジオパーク構想地域とその周辺において 8 月 7 日 (水) ~8 日 (木) に実施 (地質学会が主担当)。
2025 年度は御嶽山をテーマとして長野県木曽町周辺 (火山学会が主担当) で開催予定。
- ・火山実験交流会について
2025 年 3 月 1 日 (土)、2 日 (日) に開催予定。実行委員会形式とし、寄付を受けつけて実施予定。
- ・文部科学省「一家に 1 枚」ポスターについて
今年度は WG を立ち上げて学会全体として取り組んだが、不採択。

○ 火山防災委員会からの報告

- ・御嶽山 2014 年噴火 10 年シンポジウムについて
開催予定日：令和 6 年 11 月 30 日 (土)
会場：木曽文化公園文化ホール (長野県木曽町) & オンライン配信
主催：御嶽山噴火 10 年シンポジウム実行委員会
以下の 3 団体に所属する委員で実行委員会を立ち上げ。
火山学会、御嶽山火山防災協議会長野県幹事会、長野県危機管理防災課
委員長は大野希一、事務局長は及川輝樹。
- ・防災こくたいについて
10 月 19 日、20 日に熊本で開催される防災こくたいにおいて、「日本地球惑星科学連合の防災に関わる活動」(JpGU 環境・災害対応委員会) の展示に火山学会も参加。

御嶽山噴火 10 年シンポジウムを中心に、火山防災委員会としての取り組みをポスター展示。

・内閣府主催の連携会議について

火山防災協議会等連絡・連携会議および火山専門家等の連携会議が 2024 年 11 月に開催予定。

○ そのほか理事会での議論・報告事項の紹介

- ・ EPS 誌の運営などに関する報告（他学会関連担当委員会）
- ・ 十勝岳におけるジオツアーおよびジオパークのガイド・専門員向けオンライン講演会などの計画について（ジオパーク支援委員会）

資料 2

○ 学会の財務状態（繰越収支差額の推移・収支の内訳）、「火山」電子化による経費削減についての説明

○ 今後に向けた議論についての説明

- ・ これまで、将来計画委員会を中心として、「火山」電子化のほか、理事選挙の電子化、事務局経費の見直しなどの支出の削減・節約 については検討。
- ・ 一方で、火山学及び関連のある諸科学に関する学術調査・研究と普及・啓発を目的とする火山学会を、より魅力ある学会とし、その活動を活発化することも重要。
- ・ 学会の収入増につながる方策（会員増による会費収入や寄付も含めた事業収入）の検討を含めて、財政基盤の改善が必要。
- ・ そのために、財務基盤改善委員会（臨時委員会）を 8 月 8 日開催の理事会で設置。

○ 財務基盤改善委員会（臨時委員会）について

- ・ 設置の目的：日本火山学会の財務基盤を充実させ、安定した学会運営を行うためには、財務改善および強化について包括的かつ継続的に検討することが必要である。本臨時委員会は、学会運営強化の具体について検討を行うことを目的とする。
- ・ 実施内容：会費収入・事業収入の推移等についての検証および検討を行うとともに、学会活動な適切な在り方等について総合的な検討を行う。
- ・ 委員構成：中村美千彦（委員長）、上田英樹（財務委員長）、奥村 聡（事業委員長）、鬼澤真也（大会委員長）、将来計画委員会委員（青山 裕、市原美恵、下司信夫、高木朗充、藤田英輔、萬年一剛、三輪学央、山本 希）、千葉達郎、福島大輔

○ 秋季大会に関わる経費について

- ・参加費および大会開催費収支についての説明。
- ・オンライン化・ハイブリッド化等に伴う外注費の増加、大学や公共施設の会場使用料の有料化・高額化が参加費引き上げの背景。

○ 質疑

- ・寄付金の税制上の優遇について：日本火山学会は、認定 NPO 法人等ではなく、現状では所得控除または税額控除の適用を受けることはできない。
- ・秋季大会開催費と学会経費の関係について：各年度、大会開催費収支の見積もりと適切な運用について大会委員会・LOC が尽力をしているが、開催地事情や参加人数見積もりの困難さから赤字となる場合もある。これまでもその場合には学会経費を充てており、長期的にバランスを取るような運用が重要。